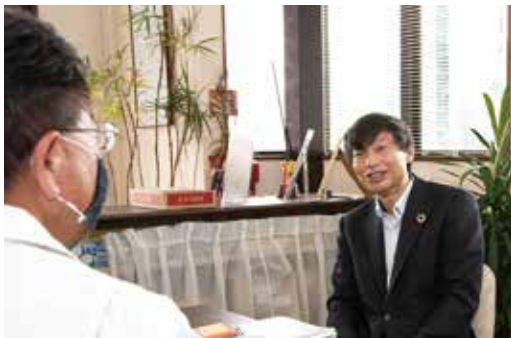




つやま産業支援センター 統括マネージャー 廣瀬 吉嗣さん

富士ゼロックス株式会社に約35年間勤務し、令和元年12月に、津山地域の企業を支援する「つやま産業支援センター」の統括マネージャーに就任。新型コロナウイルス感染症の影響で売り上げが減少する事業者を支援するため、津山支縁プロジェクト「津山支縁Webサイト」を立ち上げた。飲食店の料理の持ち帰りや宅配情報を始め、津山地域の企業が開発した製品などの情報を発信している。



▲企業を訪問し、経営者からの相談に対し、助言する廣瀬さん



統括マネージャーに応募したきっかけは？

前職では、ヘルスケア（医療情報管理）事業部を統括していました。長年、会社も住まいも首都圏でしたが、全国の病院を訪れ、診療記録などの電子化や病院の経営に携わる中、地方都市の事業者は人員の確保が難しく、事業基盤が弱いこともあり、経営が厳しいことを肌で感じていました。当時は、産学官が連携する地方創生事業も兼ねていたので、経営環境が厳しい地方都市で、自分が手掛けた事業の成功や失敗が役立つと考えました。ちょうどその頃、つやま産業支援センターが民間の事業経験者を募集していたので応募しました。

「津山支縁プロジェクト」を始めたきっかけは？

元々は、多摩美術大学（東京都）との共同開発などで種類が増えたオリジナルブランドMADE IN TSUYAMA製品を販売するEC（電子商取引）サイトの開設を考えていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、市内の飲食店をみんなで応援する「津山支縁Webサイト」を前倒しで作りました。飲食店の情報だけでなく、市内の事業者が開発した製品も紹介しています。今後も企業に出向き、経営者同士をつないで、新製品を作り「津山支縁Webサイト」に掲載していきます。

津山の皆さんにメッセージを

事業を経営する人にとって、一日でも早く経済活動を回復することが一番の願いです。わたしは、新型コロナウイルス感染症の影響は転機で、変わる機会ととらえています。首都圏に人と物が集中する構造が変化し、地方都市や地域が必ず見直されると思います。津山にある優れた技術や製品を広め、地域の企業を支援することで、新たな産業価値を作り出していきたいです。市民の皆さん、一緒に地域の魅力を発信していきましょう。

※撮影用にマスクを外しています

表紙を担当しました。撮影は市内の小中学校が再開する前でした。休校中、市では自宅で運動できる動画を配信していて、写真は、その動画を見てボール運動する子どもたちの様子です。撮影後「もっと運動がしたい」と話す2人の笑顔が印象的でした。広報紙を通じて、明るい話題を届けていきたいです。(三)

6月号に続き、手話を紹介しました。「梅雨」は「梅」と「雨」の組み合わせ。「梅」は、頭痛がする時に梅干しをこめかみに貼る風習があったことが語源といわれるそうです。一つひとつに意味があり、それが分かると楽しく覚えることができます。皆さん、一緒に勉強していきましようね。次回をお楽しみに。(三)

記事に使う写真の撮影に挑戦しました。撮影の練習は何度かしていたものの、記事用は初めて。先輩にアドバイスをもらいながらの撮影になりました。かなりの枚数を撮りましたが、良いなと思えるものは外に少なく、写真の難しさを実感。いろいろな場所やイベントに向いて、腕を磨いていきます！(三)

